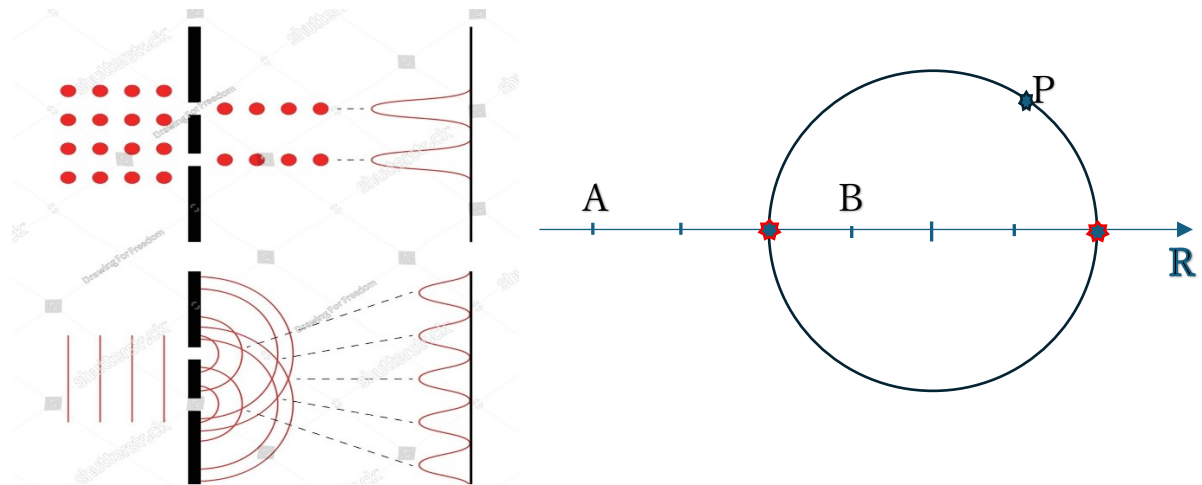


「2重スリットの観測問題」について

この不思議な事実について、『人の意識がかかわる!!』と言い、この宇宙を宗教的に語る人たちがいるようです。しかし、私は決してそうは思わない。

スリットを観測した時としないとき



例えば、数学では AB を 2 : 1 に

分ける点 P とは？ **R** 軸上では 2 点

のみであるが、高次元では連続した振動波による干渉痕跡の図形である（アポロニウスノ円）。つまり私の直観では、量子（光子など重力子含む）の振る舞いは連続した振動波であり、3次元の観測者 $R(x,y,z)$ が一つと認識した光子は、もう既に **R** 上に次元収束しており、 $R(x,y,z)$ 上では1個にしか見えていないはずである。一般に3次元を超えた高次元で常に量子レベルでは「4つの力」が存在し、観測者の意思にかかわらず、3次元者が一つと認識する物も高次元者は連続振動波と認識しているのである。つまり、量子の世界では普通に高次元（時間を含め5次元以上）であり、安定しているのが3次元（時間を含め4次元）

元) なのである。

「重力が曲がった時空間の慣性力」(一般相対性理論の解釈) であるならば、もうすでにこの宇宙の基本 OS は量子力学と融合したルールのはずであり、大統一理論は高次元（5 次元以上）での発想が当たり前である。

だから、3 次元の我々が認識できるのは双対性のある行列（ベクトル）的なルールのみである。

因果律を信じる私も「神はサイコロを振らない。」と思うが、しかし「量子の振る舞いを知るには、3 次元の我々にとって常に今後も限界がある。」と思う。

『量子もつれ』もその一つである。以前も書いた通り、「量子レベルでは1つは同時に2つであり、場の概念（量子論）により結果的にまるで方位磁石のように不思議な現象が起こる。」

しかし我々は、3 次元だからこそこれを活用しない手はない！超便利なのである。・・・・・・・・ 今の時代に生まれて本当に良かったと思う。

2025.10.5 自宅にて

